

新発生・異常発生病害虫の原因究明と対策

【研究概要】

東京都では、極めて多品目の農産物が栽培されているため、生産現場では多種多様な原因不明の障害が発生し、農業経営に大きな影響を与えている。農業生産の安定化のためには、これら未解明症状の原因を究明し、的確な対策を講じることが必要である。そこで、病害虫に関する障害について、早急に原因生物を特定し、その生理、生態を解明することにより的確な防除対策を推進することを目的に試験を実施した。その中で今年度は下記の4つ成果が得られた。

- (1) 江東地域のコマツナ生育不良圃場から検出したイシュクセンチュウ類の1種は、高密度でも生育に影響がないことを明らかにした。また、同地域から検出されたネコブセンチュウをサツマイモネコブセンチュウと同定した。地上部への影響は判然としないものの低密度でも根にこぶを生じ出荷に影響があることを明らかにした。
- (2) 都内で育成・栽培されているクリスマスローズに発生した黒色斑点症状の原因を明らかにし、病名をうどんこ病と提案した。
- (3) 青梅市少花粉スギ採種園に発生したオオタバコガは、幼虫に餌としてスギを与えた場合、幼虫期間が延長した。
- (4) 利島村のツバキに発生し枝を落とすヨコヤマヒメカミキリは、成虫の活動期間は6～7月であり幼虫の個体サイズより年1化であると考えられた。